

資料「葵西小学校評価アンケート 3年間の推移」より、成果と課題をまとめました。

知の部	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の評価は、80%以上である。 ・項目「話を最後まで聞いている」では、90%と高い評価であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、わからないところをそのままにしている児童が昨年度と同様に、20%ほどいる。 ・学習に前向きな姿勢が示されたが、児童の学習に不安を抱いていたり、改善を求めていたりする保護者の声が上がっている。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同様に、学習に不安を感じている児童がいる。 ・4月に6年生対象で行った「全国学力学習状況調査」では、平均を上回る結果も見られた。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き各教科で基礎基本を大切にし、来年度も高学年を中心に教科担任制を活用しながら分かりやすい授業を実現する。 ・昨年度以上に、ICTを活用しながら、分かりやすい授業を実現する。 ・昨年度同様に、キャリア教育を意識した授業を実践することができた。未来の自分につながる学びであることを児童と確認しながら学習を進めたい。

徳の部	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・項目「わたしは、友達の良いところを知っている」では、児童の評価が94%、保護者の評価が92%と高い評価であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・項目「学校生活で、わたしは自分なりに頑張ったな、自分を褒めてもいいなと思えるときがある」では、児童75%とやや低い評価となった。 ・友達を認めることのできる児童が多いものの、自分を褒めてあげられる児童がやや少ない。自己肯定感の高い児童を増やしていきたい。 ・軽はずみな言動がみられる実態がまだまだある。一方でそのことを多くの児童は自覚しているため、さらに行動に表れるようにしていく必要がある。いじめにつながっていかないように十分留意する必要がある。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗を経験しながら成長していく場所が学校であることを、児童が感じられるよう引き続き学校と保護者とで伝えていきたい。 ・「命について考える日」「いじめや命について考える集会」等を継続して実施していくことで友達も自分も大切にできる心を育てる必要がある。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度同様に「自他を認める思いやりの心」を育て、「自分の良さや頑張りを認められる」児童の育成を図るために①から④について

	<p>重点的に実践する。</p> <p>①児童一人一人が安心して活動でき、称揚される場を増やす。</p> <p>②児童が友達と支え合いながら仲良く生活できる学級経営の基盤を作る。</p> <p>③学校生活全般を通した仲間づくり、集団作りを大切する。</p> <p>④本年度に引き続き、いじめ撲滅をテーマにした代表委員会や全校集会などの取り組みを行う。</p>
--	---

体の部	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の評価は、89%以上と高い評価であった。 ・項目「学校生活で、わたしは心や体が元気でいられるように気を付けている」では、児童90%、保護者94%と高い評価であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・項目「学校生活で、わたしはめあてを立てて、運動や勉強をがんばろうとしている」は昨年度と比較してやや評価が低くなっている。 ・項目「学校生活で、わたしは進んで体を動かしたり、力いっぱい体育を頑張ったりしている」の保護者の評価がやや低くなっている。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことに苦手意識を持って児童に対し、自分なりのめあてを立てて活動に取り組みせ、達成感を体感できるようにしていく必要がある。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が「笑顔あふれる」学校生活を送るためにできる取り組みを実践したいこと。 ①「健やかな新進」の育成のために、基本的な生活習慣を定着させ、さらに体力・健康を保持増進すること。 ②「安心安全な学校」のために、自身と他社の安全を考えて行動できるように促す。 ③安全で健康的な生活をめざし「基本的な生活主幹の定着」「保健指導」「防災・安全指導」のさらなる充実を図る。 ・「挑戦する姿勢」を育てるために実践したいこと。 ①学年イベントを計画・実施する。計画的に練習期間や準備期間を設け、スモールステップで活動を行う。 ②持久走記録会に向けて、自主的・継続的な体力づくりを行う場を設けるなど、体を動かしたくなる仕掛けを用意する。

まとめ

それぞれの項目において、「(あまり)あてはまらない」児童や保護者もいることを忘れることなく、引き続き誰もが通いたくなる葵西小学校を目指すための実践を重ねていく。そのためにも来年度も継続して自己肯定感と自己有用感を高める支援を心掛けていく。

また本年度と同様にさくら連絡網を活用する機会を増やしていく。今後も保護者の思いにこたえられるよう、迅速かつ的確に伝達できるようにする。